

屋上に居た

渡邊美愛

愛されたかっただけなのに
私のところに住んでいる少女は
くすん、くすんと鼻を鳴らして
いつまでも蹲っている

誰も助けちゃくれねえさ
私のところに住んでいる狩人は
洒落たハンチング帽をくいと上げて
煙を燻らせる

君はどうしたかったんだい
私のところに住んでいる学者は
皮脂の一つもつかない眼鏡で
じっと見つめてくる

私のなかの人々は
私自身であり
そして世界だった

誰にも期待せず
答えを求めもせず
最初から全てを放り出して
高台で誰かを見下ろすような
ふわふわした足元に身を預け
魂を預け
結局転がり落ちたのだ

誰かを大事にしてみたかった

風は私の内臓も心もすり抜けて
地球の裏側へ歩いていく